

会

派

の

意

見



文責は各会派にあります。
令和5年9月時点の会派
となります。

平成自民クラブ

今夏の猛暑日は、過去最多となり記録的な暑さでした。気候変動の影響や熱中症対策について質し、本市では熱中症対策推進会議を設置して複数の部署で連携した取り組みを行うとの答弁を得ました。

また、安心・安全・安寧なまちづくりに関して質し、消防団・水防団並びに子ども達が持つ防犯ブザーの点検等を確認しました。自転車運転モラルの向上に関して、公・民での安全対策を提案しました。

市制施行50周年の事業について質し、継承と発展をテーマに記念事業を実施したこと、今後も不易と流行を大切に更なる発展に向け取り組みとの答弁を得ました。

一方、農業用水の維持については、適切な維持管理のため支援をすること、子どもの学力充実に関しては、教師力の向上や外国語活動の推進等に力を入れるとの答弁を得ました。

コロナや燃料費高騰で生活必需品の価格上昇など暮らしへの影響が広がる中、私たちは地域経済の緩やかな回復のため取り組みを続けます。

八木 浩・中小路貴司・三木常照

日本共産党

給食は教育。市が質の保障を

7月、来年度の学校給食費値上げの方向性を伝え、保護者の意識を尋ねるアンケートが行われました。

「値上げしてほしくない」を選ぶと「家計が厳しい・質が下がっていい・量が減っていい」などの選択肢が。続く設問では「0〜10円」から「40〜50円」の5択で値上げ幅を問い、それぞれ「今と同様」から「ビーフカレー毎月、くだもの月2回」など細かく値上げ効果の説明がつけ

られました。「自分には回答できない」と憤りの声も寄せられました。

経済的事情などで値上げを選択できない人も、決して「みんなの給食の質を下げていい」と思っているわけではありません。給食は食習慣や文化、勤労や生命の大切さを学ぶ教育の一環であり、市が責任もって質の保障をするべきです。

市長は1期目から「受益と負担の関係を市民が選択できるように」「徹底した対話」と述べてきましたが、もっと希望のもてる「対話」が必要です。全国で広がる「給食無償化」実現へ声を広げましょう。(小)

会派とは、同じ意見や考えを持つ議員が集まってつくるグループのことです。
ここでは9月定例会で審議された内容について、各会派の意見を紹介します。



輝（かがやき）

9月議会では、令和4年度の各会計の決算審査が行われ、決算にかかる全議案が認定されました。一般会計の決算額は、歳入404・5億円、歳出383・8億円でしたが、実質単年度収支は1・9億円の赤字決算でした。財政健全化法に基づく4指標については、公表以来良好な数値を継続しています。

また、今議会では、登壇順で、進藤議員から宮農支援の1項目、富田議員から屋内遊戯施設などの3項目、

宮小路議員から地域における居場所交流の場の1項目、干場議員から学習する居場所（サードプレイス）の1項目、大伴議員から地域公共交通事業などの3項目について、会派全員が一般質問を行いました。

そして、決算審査特別委員会小委員会では、会派を代表して発言順で富田・干場・宮小路の3議員から総括質疑を行いました。

それぞれの内容については、この議会だよりに掲載されていますので、ご覧ください。

富田達也・宮小路康文・大伴 壘
・干場志都恵・進藤裕之

公明党

『安心なまちづくりの構築と
新庁舎の充実を目指します』

9月定例会において令和4年度一般会計歳入歳出決算と特別会計・上下水道事業会計決算の審査を行い認定、令和5年度一般会計補正予算などについても可決いたしました。

さらには下水サーベイランス事業の実施を求める意見書など合わせて計3本の意見書を提出し、いずれも全会一致で可決されました。

令和4年度は、新型コロナウイルス

又感染症拡大の対応に加え、急速な物価高騰が市民生活に大きな影響を及ぼす社会状況下で、ワクチン接種の継続、福祉・交通・農業者事業継続やLINEを活用した商工業者支援、家計支援の施策を実施しました。防災対策では、市東部の東ポンプ場跡地整備検討も進められています。新庁舎（1期）が供用を開始され、「市民の誰もが利用しやすい」を念頭に、「まちづくりのシンボル」として市民の誰もが誇れる、新庁舎完成に向かって欲しいと要望しました。公明党は市民に寄り添い、誰もが安心できるまちづくりを目指します。

平成西山クラブ

令和4年度は本市施行50年。この節目の年の予算を、中小路市長は、コロナ対策を最優先に、新庁舎とデジタル化の推進、まちの新陳代謝、教育環境の整備を柱に編成されました。決算認定に当たり、これらの視点で振り返ると、いずれも滞りなく執行されたことを評価します。

また昨年は、徐々に非常時を抜けてよとする努力の中で、少しずつコロナ前の日常が戻ってきたように感じるところでもありましたが、一方

では世界情勢を背景に今なお続くガソリンや電気・ガスといったエネルギー価格の急激な高騰により、日常生活が大きな影響を受け、対応を迫られることになりました。そのため2度の臨時議会を開き、「家計支援給付金」「くらし支援給付金」等、様々な施策で市民及び事業者を支援されたことを高く評価します。

これらの取り組みが花開き、8万2千市民にとってかけがえのない長岡京市としてさらに成熟していくことを期待して、令和4年度の歳入歳出決算の認定に賛成しました。

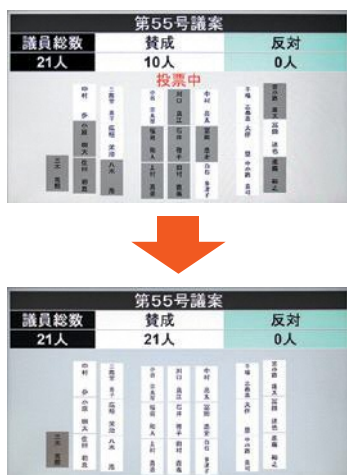
上村真造・白石多津子・田村直義

電子採決の運用を開始しました！

今まで本会議では起立採決を行っていましたが、令和5年9月定例会から電子採決の運用を開始しました。

議員は採決の際、それぞれの議席に設置してある賛成または反対のボタンを押します。

これにより、賛成・反対の人数がより分かりやすくなりました。



上が投票中の画面、下が確定後の画面です。これらの画面は議場内モニター及びインターネット中継画面のどちらにも表示されます。

